

魅力ある短期大学部のこれから

理事長・学長 香川明夫

この度、女子栄養大学短期大学部では収容定員を 320 名から 240 名に変更しました。短期大学部は本学園が戦後復興の中、新しい高等教育の場として創立者がいち早く開学した教育機関です。1950 年の開学以来、これまでに約 1 万 8 千名の卒業生を社会に送り出し、人々の健康と幸せを願って活動する人材となっています。これからもこの短大で 2 年間学んだからこそ、その後の人生でできることが大きく開かれ展開していくと信じていただけるよう取り組んでいきます。ぜひ、女子栄養大学短期大学部のこれからの、ご注目ください。

そのコアとなっているのが「栄養士」の育成です。「食を通じて人間の健康の維持向上を図る」という建学の精神を社会で実践し続けている人材となっています。本学には栄養士を目指すために必要な食品、衛生、調理、献立、人体等さまざまな食の分野を学んで実践力を獲得するカリキュラムがあり、学生は懸命に、教員は丁寧に教育活動にかかわってきています。

今回、短期大学部は新たな魅力を発揮し、一人ひとりを大切にする「個別最適化」した学修環境の提供により充実した 2 年間で過ごしていただけるよう、さらに深みのある栄養士を目指して教育の方向を社会や学生のみなさまが求めてくださるニーズに応じて進化させていくこととしました。

教育は「不易と流行」という基本的考え方を大切に進めるものと認識しています。建学の精神と栄養士資格取得は本学の不易の領域と資格です。本学の設立当初は、戦後人々が食料不足による栄養不良に苦しんでいた時代でした。現在は豊かな食に囲まれ飽食の時代ともいわれている反面、栄養バランスに偏りがみられたり、様々な状況で食へのアクセスができなかったり、自らその道を選ばなかったりする社会情勢となっています。これは流行の領域です。こうした今日的課題を自分事としてとらえ、よりよい方向へと変えていくことのできる人材を育成します。

科学技術の進歩も目を見張るものがあり、今や人工知能やロボットを社会に組み込んでいくことは当たり前です。一人ひとりがスマートフォンを持ち、多くの情報に日々接続することができています。その中では正しい情報選択能力を身につけることが極めて重要であり、特に食の情報は生涯にわたり健康に生きていくうえで欠かすことのできないものとなっています。

ウェルネスな生き方が重要視され、コストパフォーマンス、タイムパフォーマンスの向上が求められていることも取り上げられる機会が増えています。

よりよく生きるために何が必要なのか、食を通して本学で学ぶ学生のみなさまがどのような力を身につければいいのか、多面的に考え「不易と流行」を見失うことなく取り組んでいく、その結果、魅力ある短期大学部になると信じています。